

コンクリートの長さ変化試験用供試体の作製・運搬方法の手順

1. 試験方法

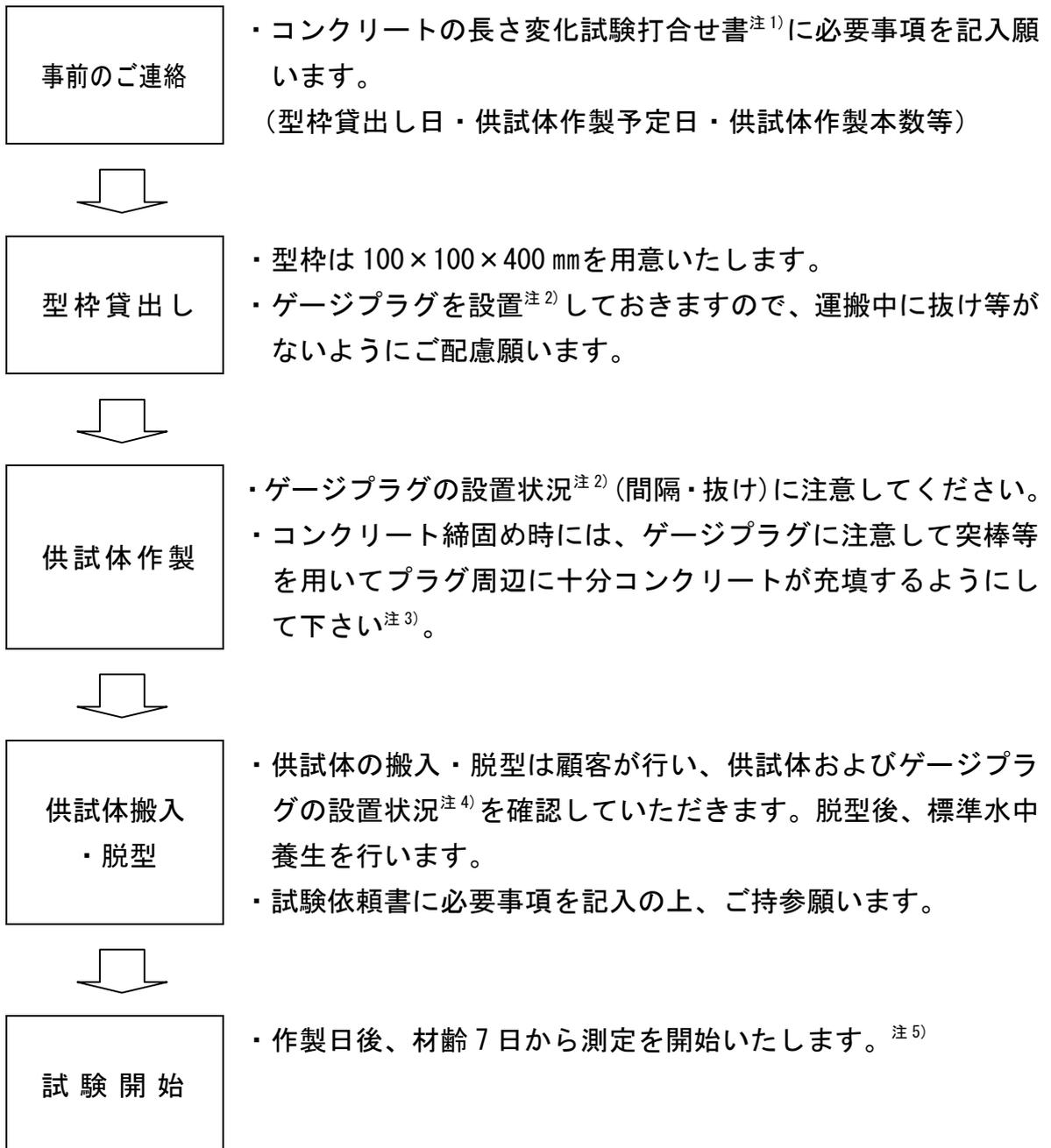
当共同試験場は、以下の試験方法に準拠して試験を実施いたします。

試験方法：JIS A 1129-3

(モルタル及びコンクリートの長さ変化試験方法－第3部：ダイヤルゲージ法)

供試体寸法：100×100×400 mm

2. 試験の流れ



3. 注意事項

注 1) 試験打合せ書に記入して頂いた内容を確認後、測定日が休日や型枠個数不足等

により供試体作製日を変更して頂く場合があります。

- 注 2) ゲージプラグの抜けによりプラグ先端間の距離が短くなると長さ変化測定が出来ない場合がありますので、供試体作製時には再度ご確認願います。
- 注 3) コンクリート打込み時にゲージプラグ周辺のコンクリートの充填が不十分な場合、プラグが不安定になり測定誤差の要因となる可能性があります。ゲージプラグ周辺は突棒やヘラ等を用いて十分にコンクリートがいきわたるようにして下さい。また供試体の水分の蒸発を防ぐためブリーディング終了後、上面にラップフィルムを掛けて下さい。
- 注 4) 脱型時に供試体およびゲージプラグの設置状態（ジャンカ・プラグの抜け等）を確認して頂き、承認して頂いたうえで供試体をお預かりさせていただきます。
- 注 5) コンクリートの長さ変化試験は、供試体作製後材齢 7 日まで標準水中養生（ $20 \pm 2^{\circ}\text{C}$ ）を行い基長を測定し、その後、温度 $20 \pm 2^{\circ}\text{C}$ ・相対湿度 $60 \pm 5\%$ の気中養生にて 1 週・4 週・8 週・13 週・26 週時の長さ変化を測定する。

4. 問い合わせ先

東京都生コンクリート工業組合 共同試験場

住所：千葉県船橋市浜町二丁目 16-1

電話：047-431-9220 FAX：047-437-4228